

【評価実施概要】

事業所番号	170501050		
法人名	有限会社ライフアート		
事業所名	グループホーム福寿荘		
所在地	北海道札幌市白石区北郷3条9丁目1番31号 (電話) 011 - 875 - 9700		
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット		
所在地	札幌市中央区南1条西5丁目7番愛生館ビル601B		
訪問調査日	平成22年3月16日	評価確定日	平成22年3月30日

【情報提供票より】(22年 3月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成12年10月28日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	10人	常勤6人, 非常勤4人, 常勤換算6.7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建て	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000~65,000 円	その他の経費(月額)	12,000~19,000 円	
敷金	有(家賃3カ月分)			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	200 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(3月16日現在)

利用者人数	8名	男性	0名	女性	8名	
要介護1	1	要介護2	4			
要介護3	1	要介護4	1			
要介護5	1	要支援2				
年齢	平均	88.6歳	最低	83歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	みどり内科クリニック・とくしま歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は民家を改造した造りであり、家庭的で利用者はゆったりとくつろいでおり、あたかも自宅で暮らしているような雰囲気である。ソファや椅子がいくつも置かれ、利用者がそれぞれにくつろげるスペースが確保されている。法人の理念に基づいて、管理者を中心としたケアを支える職員は利用者の尊厳を常に意識し、信頼関係を築いて具体的なケアに結びつけている。職員のレベルアップ育成にも熱心で、内外研修に力を入れている。認知症高齢者支援に対する情熱溢れる思いが、管理者、職員の表情、利用者への言動から窺い知ることができる。地域とのより良い関係を築き、地域密着型サービスとしての基盤を作ろうとする熱意を感じた。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で改善点はなかったが、職員は常に理念とともに成長し、また育てながら取り組まれ、地域へも積極的に情報を発信していることが窺われる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員に配布し、各自で記入してもらい、日々のケアの振り返りの時としている。また自己評価、外部評価ともに評価後、全職員で評価を受け止め、話し合いがされ前向きにサービスの向上につなげている。この評価は運営推進会議にも報告し話し合われている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを生かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、地域の代表、家族、地域包括支援センター、職員が出席し2カ月に1回開催している。会議では、事業所からの報告にとどまらず、主席者からの多くの意見や要望等を得て、サービスの向上に生かされており、これからも幅広い討議が期待される。また防火防災の対応なども積極的に話し合われているのが会議録を通じて窺える。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会が結成されている。家族との信頼関係を築きながら、毎月利用者の日常生活、事業所の行事状況・案内、職員の異動など手紙で知らせている。家族の訪問時には、気づいたことを言ってもらえるような雰囲気づくりが心にかけている。家族との連絡ノートを用意するなど具体的な相談や提言等は、ミーティング等で話し合い素早い対応も行われている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の盆踊りや花壇の植え替えなどの行事等への参加に地域から声掛けいただき、利用者と職員がともに出かけ地域住民と交流している。地域住民の事業所への訪問もあり、また町内会の総会は職員が出席するなど日々の生活の中から地域との交流や連携が着実に積み上げられている。

2. 評価結果(詳細)

NPO法人 福祉サービス評価機構 Kネット

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人を大切にささえ合う心 安心して暮らせる社会づくり」の運営理念の下で利用者との日々の関わりや地域との協力の中で職員全員が意識的に考え、行動しながら支援に努めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事務所の見やすい所に掲示するとともに、管理者と職員全員が理念を良く理解し実践している。日々のサービスもカンファレンスを通し理念に基づき取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、盆踊りや地域の行事には利用者とともに積極的に参加し、地域住民も来訪、近くの公園でも地域の方々との交流に努めている。また認知症のことや事業所入居相談などを受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員に自己評価を配布し、管理者、職員がともに話し合いよく理解したうえで自己評価に取り組んでいる。外部評価の評価後、職員全体で話し合い、利用者のサービス向上や地域との連携等前向きに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は町内会、地域包括支援センター、家族、地域住民のメンバーが出席し、2カ月に1回定期的で開催している。会議では、地域活動や利用者の状況、事業所行事、自己評価や外部評価の結果など有意義な会議となっている。会議録も整備されている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>管理者会議や連絡協議会などに参加し、研修、情報交換、相談などに積極的に関わるなどサービスの向上に努めている。また入居に関する相談等連絡を密にしている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族会が設置されている。毎月家族に手紙で利用者の健康状態や生活の様子を知らせている。来訪時には家族との連絡ノートを利用したの相談や報告、必要に応じて電話連絡を行いながら常に家族との連携を保っている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱の設置や家族会・運営推進会議などでの意見交換、また家族の来訪時にはできるだけ時間を作りながら意見や要望等を聞きだして速やかに検討し業務改善や介護サービスの向上に反映されている。話にくい場合も考え、公的窓口の案内を掲示している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>やむを得ない職員の異動の際には異動の時期をずらす、また引継ぎ期間を十分取るなど利用者に不安を与えないよう配慮している。家族にも手紙で新旧職員を報告している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員のスキルアップには積極的に取り組まれ働きながら学べる機会を多く設けている。内部研修は外部講師を招いての研修、外部研修には、全職員が参加受講できるようにされている。研修後は報告が行われ、職員間で知識を共有している。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>区内の同業者との研修会やケア連絡会の勉強会などには積極的に参加をして同業者との交流を深めての資質向上や情報交換をするなどサービスの質の向上に役立っている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用前に利用者宅や病院などを訪問し家族から情報収集を行ってから本人、家族に事業所を見学してもらい不安の解消に努め、納得したうえで利用となる。利用開始時も安心感をもって自然に溶け込めるように配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者支えあう関係を理解しており、利用者の意思を尊重しながら掃除や裁縫など力を発揮できる場面で学びの心で支えあいながら接している。話がうまく出来ない利用者には様子を見ながら声を掛けるなどなるべくそばにるように努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメントにセンター方式を用い、本人や家族から生活歴や友人関係、家族構成とともに思いや意向など情報収集し、また本人との対話ノートを活用し日々の関わりからも汲み取りよく把握して、支援の必要な部分を見極めながら本人本位の支援に努めている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日頃から本人や家族と話し合いながら情報の共有を図りながら介護計画を作成している。また職員での話し合いも定期的に行い、一人ひとりのケアのあり方、意見・アイデア等を反映させて介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは3カ月に1回定期的に行われているが、状態の変化等が生じた場合はカンファレンスノートなどを活用し、医師・家族・職員での話し合いにより、その都度、介護計画の見直しを行っている。</p>		
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>病院への受診や買い物、食事会、花見などドライブに出かけるなど基本的には、利用者の要望に沿った支援に心がけ必要に応じて柔軟な対応を行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医は認知症に関する専門知識が高く、隔週1度の往診や電話相談など常に連携が図られ療養管理されている。受診の結果等は、家族と連絡を密に取り合っている。なお事業所に看護師を配置しており、適切な対応をしている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時に、「重度化生活支援に関する指針」について説明し理解を得ており、利用者の状態に変化があれば、利用者、本人、家族、看護師、職員間で話し合わせ、かかりつけ医と連携を取りながらチームとして共有対応している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>日常のケアにおいても、利用者個々に合わせたやさしく丁寧な語調や言葉遣いに注意や配慮をし、決定時には確認するなど行っている。個人情報保護は厳守しており、介護記録などの書類の保管管理も出来ている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日々職員で話し合い、利用者一人ひとりのペース・体調に合わせながら、またストレスがたまらないように買い物、散歩、ドライブなど本人の希望を尊重した支援が行われている。また整髪や服装など自然におしゃれがされており、さりげない支援が窺われる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の得意なことを見極め、食事の準備、後片付けまで個々のレベルに応じた支援を職員と一緒にしている。その日の献立がメッセージボードとして掲示している。利用者と職員は同じテーブルを囲んで会話を楽しみながら食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を強制することなく、週2回程度一人ひとりの生活習慣やその日の状況や本人の希望に応じた時間帯やタイミングを考慮し、入浴日、時間には柔軟な支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節の良い時期はドライブ、買い物、近くの散歩に出かけたり、また日常的にはホーム内の洗濯物干しや掃除、食事の後片付けなど利用者の好きなことや得意なことをいかすなどの場面を多く設けるなど気分転換などが図れるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い日には散歩、美容室、近くの店への買い物など出かける機会を設けて気分転換を図っている。冬はどうしても閉じこもりがちになるので体力維持に努めている。また利用者のお金の所持や使い方にも配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠していないが、防犯上により夜間のみ施錠をしている。夜間の様子や室内の物音、見守りや声かけで利用者の安全を確保し施錠をしないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回の防災・避難訓練を実施し、防火防災マニュアルも整備している。運営推進会議においても災害の支援など話し合わせ、地域の協力が得られるよう働きかけている。市内のグループホーム火災発生を受け、再度防災対策に力を注いでいかれるとのことである。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者一人ひとりの食事量、カロリー、水分摂取量など細かく管理され、その人の習慣に合わせた調理・盛り付けなどの工夫されるなど職員、看護師間で情報の共有化がなされている。また補食や水分提供、食事が進むようにさりげない声掛けなどを行っている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間や和室などにソファや椅子がいくつも置かれ利用者が思い思いに憩える場となっている。生活感のある小物や植物などの設置、縁側から観る風景は四季折々の季節が感じられる。居間の模様替えを行うなど我が家にいるように居心地よく落ち着いて暮らせる場が整備されている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には家族の写真や人形、家具、仏壇、時計など本人の希望を取り入れ、家族と相談のうち今まで使い慣れた身の回りのものを持ち込み居心地良く暮らせるように工夫されている。</p>		

 は、重点項目。